

愛知県瀬戸市菱野団地の多文化社会に向けた取り組み

愛知県立大学客員共同研究員 神田すみれ

2020年の春から夏にかけて、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、海外出身の人たちは雇用や生活に大きく影響を受け、筆者は食料支援や情報発信、生活相談の対応をしていた。8月のお盆が明けてすぐに、愛知県豊田市の保見団地にあるトルシーダ¹から連絡が入った。移住労働者と連帯するネットワーク（移住連）²が全国で行っている外国人電話相談の担当者から「愛知県瀬戸市の菱野団地に暮らす外国人からの相談がとても多い、地域で食糧支援や相談対応ができる団体はないか」と問い合わせがあったとのこと。菱野団地内ウイングビル商店街に拠点のあるエムトゥエム³の代表に相談をしたところ、すぐに手書きで「緊急のお願い」というチラシを地域で配布、名古屋市内にある南医療生活協同組合の組合員にも「おたがいさまシート」の仕組みを使って呼びかけ、食料と寄付の協力依頼をしたところ、翌日からすぐに集まり始めた。

急遽、エム・トゥ・エム、地域の関連団体（まんぷくこども食堂、せと・おせっかいプロジェクト）のメンバー、市役所の職員が集まり、会議がもたれた。移住連の電話相談担当者とはオンラインで繋ぎ、菱野団地に暮らす海外出身の人たちからどのような相談が入

¹ 特定非営利活動法人トルシーダ：愛知県豊田市保見団地を中心に外国にルーツのある子どもや若者の学習支援、就労支援、日本語教育を行っている。2003年設立。

² 特定非営利活動法人 移住労働者と連帯するネットワーク：移民、移民ルーツを持つ人びととの権利と尊厳の保障を目指し、国政レベルでの制度・政策改革に向けた提言活動。技能実習・労働、医療、移住女性、ヘイトスピーチ・差別、入管法、国際人権などの領域でのプロジェクト活動、ワークショップ、移民支援活動のネットワーク化などを行っている。1997年設立。

³ 特定非営利活動法人エム・トゥ・エム。愛知県瀬戸市の菱野団地内で「さるなかとんな toto」を運営。まちかど便利屋、うたごえ喫茶、メンズクラブ。2003年設立。

っているのか具体的な情報を共有してもらい、現状の把握、食料支援の方法について話し合いをした。菱野団地は原山台、萩山台、八幡台の3つの地域で構成されているが、先ず、相談が多い原山台地域で食糧配布の活動を始めることになった。会議では、この活動を地域とつながる機会にもしたいという意見が出されたため、原山台自治会に協力要請をすることとなった。原山台集会所では愛知県立大学の大学院生が中心となり、毎週土曜日の午前中に原山小学校に通うペルーの子ども達を対象としたスペイン語の継承語教室を開催しており、継承語教室を通じて自治会の役員にコンタクトを取った。

エムトゥエムの代表、食料支援を通じて知り合った原山地域に暮らすペルー出身の女性、筆者とで原山台集会所を訪問、自治会役員と話し合いをし、9月の土曜日の午前中、継承語教室の時間に合わせて、集会所で食料配布をすることとなった。

このペルー出身の女性から地域の必要としている人たちに食料配布の情報を伝え、エム・トゥ・エム、せと・おせっかいプロジェクトはSNSを通じて多言語で広報をした。当日の活動は、地域に暮らすペルーの人たちが中心になって取り組み、自治会は、集会所入口の受付で検温と消毒、そして事前に用意した多言語でのアンケートを使って食料を受け取りに来る人たちに、住んでいるところ、家族構成、困窮の状況等の聞き取りを行った。スペイン語の継承語教室に通う子どもたちの家族、地域の人たちが集会所で食料を受け取り、また一方で、チラシを見たと言って食料を持ってくる地域の人たち、寄付をする人もいた。食料のコーディネートや集められた寄付はエム・トゥ・エムが主体となって管理した。

この緊急食料支援は9月の土曜日に4回行われ、その後は菱野団地ウイングビル商店街内にあるエム・トゥ・エムが運営する「さるなかとんな toto」に食料を用意しておき、必要とする人が取りに来るといった形式となった。

この動きが契機となり、原山台自治会では多文化に対する取り組みが始まった。2020年度から海外出身の住民たちとの接点、交流を増やす目的で「マルチ文化交流グループ」というグループが立ち上げられてはいたが、感染症拡大の中で活動が滞っていた。食料支援の打ち合わせで集会所を訪れたペルーの女性が、定期的に全戸配布されている「原山台ニュース」を「これはなに？1度も見たことがない」と言ったのを聞いた自治会の役員の人たちは驚き「そんなはずはない」といい、しかし、女性は「初めて見た。」と繰り返す

た。その場で話し合いが始まり、全戸配布されている「原山台ニュース」が認識されていない原因は、日本語で書かれた紙媒体は海外出身の日本語の文字を認識しない人の目にはとまらないのだろうということになり、多言語版を作成して全戸配布するという案が出された。菱野団地近くに暮らす大学生もこの「マルチ文化交流グループ」に加わり、数ヶ月を経た現在、原山台ニュース多言語版作成活動の中心となって編集のコーディネートの役割を担っている。

先ず、自治会ニュースの1月号を多言語版で作成することとなった。翻訳原稿が出来上がると、自治会役員から「言語別に印刷、発行するのではなく、記事ごとに5言語（スペイン語、ポルトガル語、中国語、英語、やさしい日本語）すべて併記すれば、誰が見ても何が書かれているかがわかるニュースレターになる」という非常に包摂的な編集案が出された。また、自治会ニュースとは別に、地域住民へ向けた「マルチ文化交流グループ」への活動参加を呼びかけるチラシも多言語併記で作成され、全戸配布されることとなった。

エム・トゥ・エムでは、1月から、拠点のさるなかとんな toto で「ささえあい 助け合い どうぞフード toto」という名称で食料の常時配布が始まった。これまでは営業していなかった日曜日も営業することとなり「どうぞランチ toto」という名称で、おとな 300 円、こども 100 円で昼食の提供を始めた。これらの活動は、もともこの場所でこども食堂を定期開催していた「せと・まんぷくこども食堂」との共催、食料支援がきっかけで繋がりができた「フードバンクあいち」や「ヘルピングハンズ」等の団体から、食材や資金支援の協力を定期的に提供されることで可能となり、また「南医療生活協同組合」、「せと・おせっかいプロジェクト」も食糧の寄付、専門家のアドバイス、翻訳等の協力をしている。

当初、電話相談を受けた移住連の担当者から始まったバトンが、丁寧に渡されていき、あるところから、一気に地域の中で面となって広がった。1人ひとり動きが網の目のように絡まりあい、新しい営みが生まれ、その中にいる人たちの想いやエネルギーが引き出され、その1人がまた網の目を広げていく。そのような動きが、たった数ヶ月の間に始まり、広がった。この営みが、今後地域に暮らす1人ひとりの暮らしに反映され、さらに展開し、広がっていくよう期待する。